

「家がいいね」 第125号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2014. 10. 7

民の話

歴史書に名が残らなくても庶民の歴史は続いています。その有様や生活を丹念に記録する民俗学で、宮本常一さんが書き留めた民の言葉です。

石工は子にもさせたい仕事とは言えない。しかし片田舎で、見る者もない田の岸に見事な石垣を見ると心を打たれることがある。どんなつもりで、こんな心をこめた仕事をした人だろうと。強い気持ちで積み上げたのだから、直ぐに崩れない自信になっただろう。後の者も受け継ぐ気持ちになる。

平凡な庶民の人生観が、世の中をおしすすめ、自ら成し遂げる尊さを無意識に持つと指摘します。民は、時代と社会で人民・市民・国民とも称せられます。民の基本は個人にあり、人権の基盤です。今や国境を軽々と超えて民と民は交流しています。

しかし、今の日本では、民を軽んじ、国を押し付ける動きが表面化しています。「売国」という言葉が当然のように見出しに踊る雑誌に、私は強い違和感を持ちます。これを認めれば「非国民」はすぐにでも投げつけられる言葉になるでしょう。

民と民をつなぐ交流を、「国や国民は一つにならなければならない」という強制力が断ち切る時代が、もう隣まで来ているのを許せない気持ちです。

アベノミクスは、やっぱ詐欺でしょ！

オレオレ詐欺を許さない運動は広報されますが、もっと**巨大な詐欺**は逆に見えなくされています。

(お友達内閣の時より大がかりな仕掛けです)

- ①**経済の危機**が明らかになるまでは**否定を守る**
 - ②**経済は多面的だから、成果は自分の手柄とし**失敗は他人の責任だと、**合理化する**
 - ③**多数派の力で、失敗を犯しても責任回避**
 - ④**経済に有力な集団の利益を、まず擁護**
- アベノミクスで利を得た方もいますが、

生活苦の民の中にはいません。商業新聞の半分近く、NHK、日本銀行、法制局、各種審議会に手の者を送り込んでいますから、安倍くんの評価は揺るがないようにしています。民の請願にもあっさり「見解の相違」と言えたわけです。



今日は死ぬのにもってこいの日だ

今日は死ぬのにもってこいの日だ。
生きているものすべてが、わたしと呼吸をかわせている。
すべての声が、わたしの中で合唱している。
すべての美が、わたしの目の中で休もうとしてやって来た。
あらゆる悪い考え方は、わたしから立ち去っていった。
今日は死ぬのにもってこいの日だ。
わたしの土地は、わたしを静かに取り巻いている。
わたしの畑は、もう耕されることはない。
わたしの家は、笑い声に満ちている。
子どもたちは、うちに帰ってきた。
そう、今日は死ぬのにもってこいの日だ。

生きる姿勢が死の日まで
見事につながる詩ですね。
アメリカ原住民フエプロ族
の死生観を示しています。

下の絵は、開院の時にさ
る高齢者から頂いた外国製
の版画です。はるか遠くま
で見渡せる景色の中、少し
ずつ野を下ってゆくと我家
が見える光景に、一日が終
わってゆく安らぎが感じら
れます。朝、目覚めれば、
また一日が与えられるかも
しれませんが、目覚めない
としても自然に還るだけだ
と、先の詩と同じく思えるので



終の棲家を知るために

みえ生と死を考える市民の会の勉強会です。

11月22日(土) 13時半から15時半

三重県総合文化センター(津市)生活工房にて
講師 森美由紀さん(ケアマネ)



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp

ホームページ <http://isezaitaku.com>